

20101030 現代政治戦略研究会議事録

「市議会議員の一日 ～地方議員への比較インタビュー～」

日 時：2010年10月30日（土）15:00-18:00

場 所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

テーマ：「市議会議員の一日 ～地方議員への比較インタビュー～」

発表者：白根大輔氏（川口市議会議員）

ゲスト：土井裕之氏（さいたま市議会議員）

参加者：参加者 12人（発表者除く）

（財務コンサルタント、広告代理店、会社員、公務員、国際交流団体職員、
NPO法人理事長、大学院生、公認会計士、行政書士・司法書士など）

○会長から開会挨拶、戦略研・政治研の趣旨、今回ミーティングの趣旨

→資料「戦略研概要」

○参加者近況報告

- ・ 民間のノウハウを政治の世界に注入したい
- ・ 国民と政策との乖離を感じている
- ・ 広報コンサルをしています。どういう方向で、どう伝えるか
- ・ 有権者とのコミュニケーションのヒントにしたいです
- ・ 市議会議員の普段の仕事を知りたい
- ・ 税制改正など身近なものに感じない
- ・ 市議会議員の地域活動に興味
- ・ 市民の生活にどうかかわっているか知りたい

○発表

「市議会議員の一日 ～地方議員への比較インタビュー～」

発表者；白根大輔氏（川口市議会議員）

1. 自己紹介

- ・ 2007年より、川口市の市議会議員。川口市は政令市に準じた市。
- ・ 市議会議員になる前は、ビラ配りを行ったり、議員秘書を勤めたりしていた。
ある程度の目星がついたところで、議員候補・政党公認への公募を行なった。
- ・ 市議会議員になった動機。川口という街の公共交通への思い（生活の不便を解消したい）。
現在、この思いが形になりつつある。
- ・ 市議会議員の仕事。いままでは、本業プラス議員という非常勤的、兼業的な仕事。
また、市議会議員の子どもが後を継ぐなどだった。

現在は、上記のような状況から変わってきている。

- ・市議会議員の仕事は、やりがいがある。ただし、それもやり方次第。
- ・なお、市議会議員への立候補の際に、会社勤めであれば、休職扱いとできるような身分保障制度の必要があると痛感している。

2. 市議会議員の年間（月間）スケジュール

※ 川口市議会の場合

- ・年4回の定例会（4月、9月、12月、3月）。
会期、20-25日間。1日拘束（一般的には10時～18時）。
自営業者や会社経営者でも厳しいが、
サラリーマンでは、仕事を辞めないと地方議員になれない。
- ・3月の定例会は、予算の審議。予算案は役所が作成。10月、11月に編成、要望。
- ・議会、形式的。流れ作業。議案作成が重要（代表者会議まで）。
- ・休会日は、市の行事などに参加。
- ・議会の無い月。特別委員会（庁舎建て直しなど）・審議会、政策勉強会に出席。
地域へのあいさつ回り。地域情報の収集と市政報告を行う。
顔を出すことが、市議の活動を理解していただくために一番重要。
また、駅頭演説にて市政報告も行う。
→市議会議員の「見える化」の一環と考えている。

3. 市議会議員の活動

例として、2010年10月17日～の1週間を見る

- ・土日。地域行事（運動会やお祭りなど）への出席。地域の問題などの意見收拾を行なう。
隣接地域の選挙の出陣式に出席。積極的に他地域の選挙に行くことにしている。
- ・平日。会派として予算要望書を作成。
駅頭演説を週に3回。
昨年までは、塾講師。現在は、自分の事務所で英語指導を行なう。
- ・この週は休み無し。

4. 会派内での活動

- ・一般的に、会派は政党とは違う、議会内独自の勢力図になる（ただし、川口市議会は、90%政党通り）。
- ・会派にて、政策勉強会、予算要望、ローカルマニフェスト作成を行なう。

- ・また、先進事例のある地方自治体への視察も行なう。

5. 今後の取組み

- ・川口市内の公共交通の網の充実政策を行なっていきたい。バス路線が住民のニーズに合っていない。
- ・提言と地域の要望とのマッチングを図っていきたい。実感として、提言を行なったとしても、地域の人がそこまで望んでいるのか疑問がある
たとえば、外部評価制度導入。費用対効果は合わなくても、住民ニーズはあるものはどうするのか？
- ・合理的でなくても、小さい声を拾っていきたい。とはいえ、そのような小さい声にも行政が対応すべきなのかのジレンマがある。
- ・市民とのコミュニケーションについて。ネットよりも、リアルを重視している。駅頭や地域での会合、あいさつ回りなど。

○地方議員への比較インタビュー（パネルディスカッション形式）

- ・白根大輔氏（川口市議会議員。民主党）
 - ・土井裕之氏（さいたま市議会議員。無所属（民主党と会派を組んでいる））
- のお二人に会場にてインタビューをさせていただいた。

①議会の最近の状況、トピック（アイスブレイキング）

→また、現在、追いかけている政策につき

白根氏；川口市のトピックスとしては、火葬場の用地問題です。

土井氏；11/2に、議会の会派として、事業仕分けを行なうので、この準備がたいへん。

議会の会派としては、国内で3例目。

行政改革を目的として。自民、公明、共産はこの事業仕分けに反対している。

また、児童虐待問題への関心が大きい。児童養護施設の調査を行なっている。

児童相談ができる機関が少ない。

②地方議員を目指した動機、地方議員になって設定したゴール

→現在のモチベーション

白根氏；市議会議員になった動機。川口という街の公共交通への思い（生活の不便を解消したい）。

土井氏；1999（27歳）のとき。浦和市、大宮市、与野市の合併（現さいたま市）反対の市民運動を、アルバイトをしながらしていた。合併反対の意思表示のために、

市議会議員に立候補。家族の反対にあった。

三市の合併後、市議会議員を辞職。2年間はアルバイト。

2003年、議員特権の排除、行政改革にゴールを再設定し、市議会議員を再スタート。

③当初想定した有権者のターゲットと現状

白根氏；川口市民は、さいたま都民と呼ばれている。川口市に住んでいるが、日中は、東京で働いている人が多い。また、元々の住民と、比較的最近流入してきた住民が混在している。なかなかつかめなかった。議員3年半で、ちょっと目に見えてきたところ。

土井氏；自民・公明・共産は、支持母体が存在する。これに対し、民主党・無所属は、無党派がターゲットとなる。有権者との接点に偏りが生じている。議会に入ってみると気付く。

無党派をターゲットにしているので、街頭演説に力を入れている。そして、地元で生まれ育ってきた人、友人、知人などとなる。

④地方議員としての収支の現状

→どこに支出しているか、今後どこに支出したいか

白根氏；川口市議会議員の月収は62万円、年間トータルだと1000万円。ただし、支出が多いので、可処分所得は少ない。支出としては、地域での行事への参加費がかかっている。

なお、市政報告の印刷代は、政務調査費（月18万円）から支出している。

土井氏；さいたま市議会議員の月収は80万円、年間トータル（期末手当などを足して）だと1700万円。月の可処分所得は、49万円。このほか、政務調査費が、会派として月14万円、個人として月20万円。

市議会議員の報酬は、他の地方自治体との兼ね合いで決められていることが多い。

支出としては、①議会、②選挙、③日常の政治活動となる。

→もし報酬があつたら、どう使いたいですか？

白根氏；政策スタッフ代に使いたい。現状だと、政策を作れない。議会事務局もその能力はない。

土井氏；報酬は中途半端な金額になっている。もちろん、有権者が議会に何を期待しているのかによる。政策立案ももちろんだが、専門的な監視もできないのが現状。一過性的な活動しかできない。

⑤設定したゴールとのギャップ、改善・補充の必要な点

→スタッフやサポーター等、人的に不足している分野

白根氏；同年代（30代前半）のサラリーマンなどの人たちを、いかに取り込むか？ 仲間に入れるか？ 何かきっかけが必要と考えている。たとえば、川口市の公共交通。

土井氏；納税者に信頼される議会になっていない。中々、納税者から見るできないのが現状。

高齢社会への対応。非コンパクトシティであれば、行政需要はどんどん増える。行政サービスを減らすか、それとも増税するか。決断のときに来ている。このためには、議会の活動が理解される必要がある。

⑥有権者とのコミュニケーション（リアルとネット）

→有権者はどうすれば地方議員とコミュニケーションをとれるか（ノウハウ）

白根氏；自分の思いと、住民のニーズの双方があって良い。この2つが並走する形がコミュニケーション。

また、コミュニケーション手段としても、EメールやBLOGと、町会・自治会や、駅頭・戸別訪問の二方向で住民ニーズを吸い上げる。

土井氏；「有権者は馬鹿だ」では、アウト。

コミュニケーション手段としては、HPと街頭演説。また、会合などに招かれてあいさつなどから。

→お会いしたことの無い方からのメールでのお問合せ対応は？

白根氏；メールからの要望には、メールにて対応している。

土井氏；メールには、メールで対応している。電話は、為替取引や宗教の勧誘が多い。

→ミニ集会などは開催されていますか？

白根氏；衆議院選挙のときなどに、その候補者のミニ集会に相乗りしている。

土井氏；労力など、物理的に難しい。また、さいたま市南区（選挙区）は、会場の確保が難しい。

⑦統一地方選挙の状況

→マクロ（国政、県政、市政）と、ミクロ（街頭など）

白根氏；民主党への批判が厳しくなっている。

土井氏；現在の国政を見ると、有権者は「選挙に行っても変わらない」と感じているのではないか。このため、統一地方選の投票率は下がるのではないか。

民主党への追い風は止まり、いまは逆風になっている。

政治家は経年劣化していく。若いということで当選しても、次の選挙のときには、4年分の年を取ることになる。若くなくなっていく。政治家への期待から、どのような成果を残したかに有権者の目が向いていく。

○質疑応答（議論）

・白根大輔氏（川口市議会議員。民主党）
に対応いただきました。

なお、下記の「→」は、参加者からの意見です。

Q1 ; SNS やツイッターなどのソーシャルメディアと、どう付き合いますか？

A1 ; BLOG を行なっていますが、役所の職員がチェックしているよう。

ツイッターは活用したいと考えている。

ただし、ソーシャルメディアを使っている人たちは、ほんとうに選挙に行くのだろうか。

→ソーシャルメディアを、マスメディアといかにかからめるかも考えるべき。

→ツイッターでいかに関係性を作るかを考えるべき。

→地方議員の BLOG は見ない。

→SEO ができていないと、検索に引っかかってこないのでは。

Q2 ; 政党に属する意味はなんでしょうか？

A2 ; 地方議員にとって、政党はあまり関係がない。ただし、地方の問題とは異なる、国政の動向に左右されてしまうことになる。

Q3 ; 駅頭演説のエリア分けなどは、事前に行っているのでしょうか？

A3 ; 駅頭演説がかぶるときもありますが、そのときには、お互いに大人の対応をしています。

以上